

1. 活動報告（事務局 記）

—9月29日（月）「昭如山遊ロード二俣瀬」の案内看板製作準備と頂上付近の草刈りを行いました。

—10月5日（日）数名の欠席のご連絡も入りましたが、11名の参加者がありまして計画通り活動が出来ました。参加された方々大変お疲れ様でした。

「昭如山遊ロード二俣瀬」看板の新規作成と設置が無事済みしました。訪問者が道を間違えないように看板取付と、周囲の刈り取りが完了しました。

ビオトープでは、稲刈りの準備のヨケジ溝あげと草刈りが終わりました。

ため池のエコアップで除草をおこないました。

—10月18日（土）秋晴れの中、稲作体験の「稲刈り」を行いました。参加者は親子自然観察隊員20名（親8、子8、ジュニア4）、二俣瀬子ども会19名（親11、児童7、幼児1）、その他上田市民センター長・野村公民館長・高橋小学校長・岡環境政策課員・山大応援学生3名・里山ビオトープ二俣瀬をつくる会会員19名 総勢64名でした。

朝露があり刈はじめを少し遅らせて行いましたが10時半には刈取り、はぜ掛けも終わり、汁粉にて刈みてをにぎやかに行いました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

◎行 事

—10月25日（土曜日）10時 稲脱穀予定（天候と乾燥具合による）

—11月2日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）

—11月22日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）千歯・足踏み脱穀機・唐ミイ・石臼・ダイガラウスを使って収穫をします。また新しい稲わらでしめ飾りのつくる方も勉強します。二俣瀬小学校の高橋校長先生に児童の社会教育にと進めておりますので参加者が増えることになると思います

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声【休耕田と高齢化】（原田満洲夫 記）

ビオトープ横の市道の奥深く行くと山陽新幹線のものぞみやその他の車両を見渡せる絶好の場所があります。旧道の山中から旧井関村（現阿知須）に抜ける山合道の土手に9月末に野生の桔梗がたくさん咲いていました。咲いた花をいくらか切り取ってビオトープ手前にある父母・先祖の墓に手向けました。10月初めに再び山合道のそこに行きましたが、いまは枯れた幹にたくさんの種がついており来年以後の子孫となると思われまます。

今年は特にたくさん咲いたようです。土手下は田んぼだったところで、過っては米をつくり土手の管理も行き届いて草刈り毎に桔梗が大きくなる前に切り取られていたのでしょうか？多くは見る事が出来ませんでした。今年も田んぼも荒れ草刈りもされないためたくさんの桔梗が咲いたものだと思います？

来年はたくさんの桔梗の花を拝見したいのですが、おそらく今度は手をかける人もなく荒れすぎて桔梗が絶えなければと危惧します。山間部の耕作地が荒れるのは、すべて高齢化による働き手が少なくなっていく現状からだと思えます。

5. 親子自然観察隊（稲作体験 稲刈り）（管 哲郎 記）

今日も朝から秋晴れの晴天でした。大型台風19号が1週間前に通り過ぎ、さらに今年は夏の終わりに曇り続きで、日照不足による生育不良や稲の倒壊などが起こっていないかと一時は心配いたしました。幸いなことに稲穂には全く被害もなく、立派な稲が育ち、一年間の苦勞が報われた気がいたしました。

親子自然観察隊員とその家族、二俣瀬子供会の親子のみなさん、ビオトープの会員、宇部市、公民館、市民センター、二俣瀬小学校、山口大学関係者など総勢64名の出席をいただき、定刻の9:00より稲刈りの行事が始まりました。

稲刈りの前に、今井会長の挨拶から始まって、観察隊長、子供会会長さんの挨拶を受けたのち、原田副会長より稲刈りの方法、手順の説明を受け、みんなで田んぼに入り毒蛇（マムシ）を追い払い、そのあと稲の刈取りを行いました。子供たちも何度か稲刈りの経験があり、わずか1時間ほどで稲刈りは終わりました。後は大人たちによる天日干し「ハゼ掛け」を行って、落ち穂を拾い終了いたしました。

今年は稲刈り前に晴天が続き、水田の中がかなり乾いており、刈取りも楽で、稲の汚れもそんなにはありませんでした。きれいに稲刈りができ、とてもすっきりと刈り終わりました。

今日は、“刈みて”として全員に「お汁粉」がふるまわれました。甘くてとてもおいしく、疲れた体がとても癒されました。中には3杯もお代わりする子がいたかな？・・・！準備の都合でオムスビなどの用意はできませんでしたが、子供たちも十分に満足していただけたと思います。準備、担当して下さった会員のみなさん、ご苦勞様でした。

「観察隊長より」

今年の7月に思いもよらぬ心臓の疾患に見舞われ、緊急手術、入院を余儀なくされました。年内にもう一度最後の手術が待っており、会員や隊員の皆様には多大なご迷惑をおかけしております。しかし、おかげ様でこれまでの経過は順調で、12月の解隊式には何とか出席できるのではないかと考えております。しばらくの間、ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願ひいたします。



稲刈り開始



刈りかたのお手本を子供たちに



刈った稲を束ねてハゼ掛け



参加者全員で記念撮影

親子自然観察隊（10月18日 稲刈り）に参加した親子の感想

★金子実侑さん

毎年やらせてもらっているのでなれてきました。

おかげで上手になりました。ふだんできない事なのでとても楽しかったです。

私は原田さんの刈り方にびっくりしました。私も、できたらいいなとおもいました。

お餅つきも楽しみです。いい経験になってよかったです。

また参加したいです。ありがとうございました。

★金子さんのお母さん

秋晴れの下気持ちの良い汗をかき、刈りみてのおぜんざいもおいしくいただきました。

貴重な体験をありがとうございました。

★相津野々花さん

稲刈りで、稲をスパスパッと、一しゅんで切るのが楽しかった。弟が楽しそうにしていたけど、手が切れそうになってやめてしまった。自分は楽しかったので、今度もやりたいです。

★相津さんのお母さん

観察隊で毎回初体験をさせていただいています。稲刈りも今回初体験でした。子供達と一緒に体験し、楽しさや大変さも共に知ることができました。

★阿部真愉さん

今日は ビオトープに行きました。天気がとても良かったです。

いねを刈っている時に『15たば』という数をわすれそうでした。いねには 黄色っぽいお米がたくさん実っていました。

一回だけ いねをしぼりました。かたくむすばないといけないのでむつかしかったです。

かりみてで たくわんを5まいくらい食べました。おいしかったです。(ぜんざいはにがてで

す) 今日はとても楽しかったです。

★野田怜くん

稲刈りを頑張りました。ぜんざいを4杯食べました。美味しかったです。

★野田君のお母さん

うちの子は田植、稲刈りが好きで、今回の稲刈りもハゼカケも段取りよく楽しそうにしてました。息子はぜんざいは食わず嫌いかと思ってました(笑)
刈りみて…刈り終わった(みてた=なくなった)っていう意味なのかしら?って話をしていました。

昔の人は節目を大切にしていたのかな～って思い 我が家でも昔の事を調べて季節の事や食べ物等取り入れてみようと思います。

★藤井哲平くん

ぬめぬめ、どろどろでいやだった。

★藤井美早さん

稲がいっぱい刈れておもしろかった。最初より速く上手にできるようになった。

★藤井君のお母さん

いいお天気の中で、稲刈りができてよかったです。『かりみて』のおぜんざいも美味しかったです。ありがとうございます。毎回『～みて』は準備が大変ですよ。今でも大変なのに昔の人はもっと大変だったはずなのに、収穫を祝ったり、みんなで作業をするという暮らしだったんでしょうね。

★下川航平くん

稲刈りの、鎌で切るところが大変でした。切り終わってからお母さんに結び方を教えてもらいました。むずかしそうでした。

★下川拓くん

稲刈りの時にねずみの生まれたての赤ちゃんを初めて見た。親が見当たらなかったのかわいそうだった。はぜかけの時に結ばれた稲を半分に分けるのが大変だった。

★下川君のお母さん

今年の出来は良いと言われた通り、今年の稲穂はきれいでした。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(22) コノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum* Ris

トンボ科 <アカネ属 (アカトンボ属) > *Sympetrum* Newman

7月から10月ごろに見られる秋のアカトンボで、9月ごろに多く見られます。北海道~九州、朝鮮半島~中国東北部まで分布し、国内の島々にも広く棲息しているようです。

アカトンボの中ではもっとも赤色のあざやかなトンボと思われます。透明な翅の先端にもくっきりと赤褐色斑が見られます。翅の先端に褐色斑をしたトンボは数種類いますので間違いやすく要注意ですが、鮮やかな赤いトンボですので本種とすぐにわかるでしょう。

植生豊かな低山地、丘陵地の開けた池沼や水田などに棲んでいます。成熟するまではかなり遠くの高い山の頂上付近などに登るようで、高い枝先などでも見られますが、成熟すると生まれた池の近くに降りて、農道や林道、雑草地、海岸近くの公園や浜辺などにも飛来し縄張りを持ち頻りに縄張り内に飛来します。宇部市にもあちこちで結構多く見られますが、アカトンボは皆同じように見えるのか、あまり認識されていないのかもしれない。

<褐色斑をもったアカトンボ>

マユタテアカネ・ツマグロ型、リスアカネ、ノシメトンボ、ミヤマアカネ。



赤色の鮮やかなコノシメトンボ♂



コノシメトンボ♀



コノシメトンボの連結産卵と産卵飛翔

7. 会よりの連絡事項

1) 10月8日 市内の山歩き同好会（為近会長）他10数名の方々が男嶽と昭和山を散策されました。もちろんビオトープにもおいでいただきましたが、前回昭和山に来た時は頂上から先の道が分からず後戻りをされたと以前に情報が入り、我々で草刈や遊ロードの整備と看板架け替えをしましたが、会長様より「おかげでスムーズに大変楽しく歩かせていただいた」とお礼の言葉を頂きました。

8. 編集後記

ビオトープの活動を通して、新しい体験をさせていただいている。

たとえば、電気ドリルの使用。そもそも普段は電気ドリルには縁のない生活をしている私である。それが、このたび、昭和山の道案内の看板を立てるというので、はじめて電気ドリルを使わせてもらうことになった。支柱の板に看板を取り付けるため、太いねじ釘にドリルの先を合わせ、板にねじ釘を埋め込む。人がやっているのを見たら簡単そうだったのに、いざ自分がしてみると、なかなか簡単には、板にねじ釘が埋め込めない。辛抱強くご指導いただき、2～3本の案内板を設置することができた。

看板を設置してしばらくたってから（稲刈り体験のあと）、ためしに昭和山に登ってみた。案内板通りに行けば、迷わずに山登りができるかどうか…。

いつもは人の後をついて登っているので全く不安はないが、今日は自分が先導で行く。シダが生い茂り、所々、倒木もあり、蜘蛛の巣が掛かっているのを避けながら歩く。

ちょっと怖い。しかし、30分ほどでアドベンチャーは無事終了！

看板通りに歩いたら、迷わずに山歩きする事が出来て良かった。

秋の一日。昭和山で気軽に山歩きするのもいいですよ。

（ 中本 亜矢子 記 ）